

茨城県立こども病院だより

令和元年 9 月 25 日 第48号

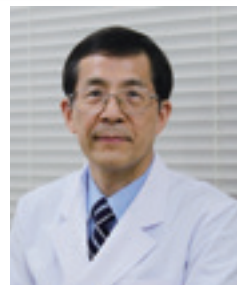


表紙写真：新生児救急車（ラッコ号）

指定管理者 社会福祉法人 水戸済生会茨城県済生会

令和になって、こども病院の新たな役割は？

病院長 須磨崎 亮



元号が「令和」に変わり、私たちの気分も新たなものになりました。こども病院が令和の時代に求められることは何でしょうか？当院は今から34年前に開設されましたが、その役割を次々に拡大してきました。開設当初は新生児医療や造血幹細胞移植など、茨城県で初めての高度専門医療を担う病院でした。その後、医療の高度化や小児医療の集約化に伴って、救急車やドクターヘリへの対応を求められるようになり救急医療が重要な役割としてつけ加われました。

茨城県の小児病院として、私達は医療面から県内のこども達を支える任務があります。厚生労働省は本年2月18日に、新たに「各県並びに医療圏別の医師全体、及び産科・小児科における医師偏在指標」を発表しました。これによれば、茨城県は医師全体で42位、産科が39位、小児科が47位（最下位）でした。この事からも当院の任務として、小児科医の養成が重要なのは間違いありません。また、先日発表された2018年の人口動態統計では出生数の減少にますます拍車がかかり、少子化対策の見直しが急務となっています。このような状況から、令和時代の茨城県立こども病院は、専門医療と救急医療のみならず、医療従事者の教育・養成や少子化対策への貢献などが求められるようになるでしょう。例えばこれらに関連した活動として、4月から始まった病児保育施設についてお知らせします。

こども病院は水戸済生会総合病院の病児保育園の運営を手伝っています。水戸市の援助で建てられた建物の設計段階から私達の意見を取り入れて頂き、病児相互の感染管理にも万全を期した立派な保育園です（写真）。こども達が喜んで来られるように内装も工夫されており、病気のこどもとご家族を支える雰囲気になっています。子育て中のこども病院の女医さんが園医を務めており、毎日の回診から感染予防まで病児保育園として理想的な環境を整えて、保護者の皆様に安心してご利用を頂けるように頑張っています。近い将来、茨城県、医師会並びに他の病院とも連携して、子育て中の医師や看護師が安心して育児と仕事の両立が図れるような制度も創る予定です。水戸医療圏全体として、若い医師達が安心して研修ができる環境創りに貢献できればと願っています。病気の子どもにとって母親は何よりも力強い味方ですが、一般の方々も勤務の都合で困ることもあると思います。この施設は一般の方々も利用できますので、このパンフレットをお読みの先生方からも是非、広報して頂けるようお願い申し上げます。



基本理念 ～将来を担うこどもの生命をまもり、心身ともに健やかに育てる。～

2019年度 第1回 こどもの診療ワークショップを開催しました

5月25日（土）に、2019年度第1回こどもの診療ワークショップを開催しました。

このワークショップは、「こどもを診療することに不慣れな初期研修医が、救急や当直などであわてることのないように。必要な場合には上級医や小児科医につなげることができるように」を目的として、県内の初期研修医を対象に2017年度から年2、3回の頻度で開催しているものです。大きく分けて2部構成になっており、第1部が外来で頻度の高いテーマについての講義と診察シミュレーション、第2部が超音波検査についての講義と体験です。



シミュレーション。得られた情報から原因を想定して対応する。



超音波検査研修を受けた小児科医から、コツを学ぶ。

今回は11名の初期研修医が参加してくれました。テーマは「小児の発熱のみかた（講師：淵野玲奈医師）」と「小児のけいれんのみかた（講師：塚田裕伍医師）」の2つです。診察時の注意点や見落としとしてはならないポイント等の講義を受けた後、その内容をふまえてシミュレーションを行いました。参加者は2班にわかれ、保護者役スタッフへ問診したり小児人形に必要な処置を施したりしながら、身体所見や検査結果などの情報をホワイトボードに羅列していきます。実際の症例をもとにしているため臨場感があり、参加者の様子も最初はぎこちなく、保護者役への質問がなかなか出てこなかったのですが、2つめのテーマに移る頃には前のめりで、書記役がホワイトボードにペンを走らせる速度が間に合わないほどでした。

休憩を挟んで、超音波検査です。非侵襲的で鎮静の必要がなくすぐに実施できる超音波検査は、小児にとっても有用な検査方法ですが、対応できる技術者はまだまだ少ないのが現状です。当院ではワークショップや研修の目玉の1つとして超音波検査を積極的に推しています。今回は腹部超音波検査に関する講義（講師：浅井宣美臨床

検査部長）の後、検査室に移動し、参加者ひとりひとりにプローブを操作してもらいました。プローブを当てる対象は、人形ではなく本物のこどものおなかです（スタッフのお子さんにご協力いただきました）。

アンケート結果から、この形式はわかりやすく役に立つとの声をいただいています。テーマの選定をはじめとする計画から当日の運営までを若手小児科医が皆で担当していることが一因と考えられ、今後も継続開催する予定です。

（医療教育局 森 飛鳥）

ふれあい看護 2019 の報告

「看護の日」とは、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日に制定されました。この日を含む週は看護週間とされ、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに、気軽に看護に触れられる楽しい行事が全国各地で行われています。

こども病院では、中学生及び高校生を対象に、かけがいのない命の大切さ、小児看護の素晴らしさを身近に感じ、看護職への理解を深め将来の職業選択に活かしてもらうことを目的としたイベントを開催しています。このイベントは、こども病院の看護にふれることから「ふれあい看護」と名付けられ、2010年から開催されています。水戸医療圏内の中学校と県内の全高校にお知らせを送付し、ホームページからの申し込みで参加者を募集しています。申し込み開始時には、数分の間に定員を超えてしまうほど大人気のイベントです。

若葉のにおいに満ちあふれた晴天の5月11日、中学生5名、高校生48名、保護者9名の方にご参加いただきました。「いのちの誕生から育む小児医療」と題した医師による小児医療の素晴らしさの紹介、各部署の看護師による小児看護の魅力についての紹介、病院内の見学、保育器やプリパレーションの道具など、小児医療に必要な物品や機械類の展示を行いました。保護者の皆さんとは、看護師の資格を得るための進路や就職後の生活などについてイメージができるよう質疑応答の時間を持ちました。

中高校生の皆さんは、病院という非日常的な環境の中で、闘病する子どもの現実に戸惑いながら、緊張した様子で医師や看護師の話に耳を傾け、一方では看護師のユニフォームを試着し笑顔でポーズをとって記念撮影を行う姿もありました。イベントの中でも病院内の見学は好評で、普段立ち入ることのできない病棟や手術室の見学は医療の現場を体感できたと感動の声を得ました。新たな時代の担い手である中高校生にとって、病院見学や看護師体験は、看護師という職業についての理解を深め、小児医療や看護の魅力を十分に発信する場になったと思います。

私達看護師にとっても、このイベントの開催は、看護師を志した頃の気持ちは忘れないという原点回帰の意味もあります。参加する看護師は、自身の経験や知識などを学生に伝えるために、自らの看護師としての仕事や役割を見つめ直すことで、改めて看護師という仕事の素晴らしさや、やりがいを感じる機会となっています。

看護の日だからこそ今一度、看護に身を捧げたナイチンゲールのように地域の人々の健やかな生活を思い、多くの人と看護についての意識を共有できるこのイベントを、今後も継続して取り組みたいと考えております。

(ICU・HCU 師長 高橋 弥貴)



薬 剤 部 紹 介

私たち薬剤部は7名の薬剤師で業務を行っており、1階外来の隣に位置したところが職場となっています。毎日の仕事は主に調剤、注射薬の払い出し、抗がん剤作成及びT P Nの調製の業務を分担し、午後からは服薬指導、N I C U病棟での薬学的管理、P I調製などの病棟業務に加え病院全体の安全管理のためのリスク部会、院内感染に係るI C T、患者の栄養管理のN S T等々各委員会活動の参加を縦横無尽に体を走らせ1日を終えるといった状況です。また、休日夜間等の救急対応にも当番制で臨んでおり、1年間年中無休で働いております。仕事をしていく上で最も大切なことはチームワーク・連携プレーと認識し、個々の薬剤師が業務遂行のために努力しています。また、当院では、患者さんのための各季節等に応じたイベントや、職員の親睦を図るための行事、春は地引網、夏には、患者さんと夏まつり、秋にはドッチボール大会などの運動会、冬には、クリスマス会、年度末にはボウリング大会など職員が1年の楽しみにしている行事も組み込まれており、そんな中、薬剤部はボウリング大会で総合、個人供常に優勝候補筆頭に上がるなど、活躍が目立っており、日々の業務に付随するものであると感じています。薬剤師は幅広い知識と経験が必要であり、多様の趣味を持ちそれを仕事の活力として毎日の業務を円滑に行えるよう頑張っています。

国から薬剤師の業務に対し、薬に関しては医師と同等の立場に立った責任と期待が求められている中、薬学部の6年制教育が義務化され、当院薬剤部においてもニーズ答えるがごとく従来の業務に留まらず、処方設計支援から副作用対策など、チーム医療の担い手として、フィジカルアセスメントが行えるよう日々努力している次第です。業務環境においては、電子カルテ化に伴い、調剤・水剤監査システム、注射薬ピッキングマシンの導入など、経験と機器類を一体化させ、患者さんに良質な医療の提供ができるよう「究めんとすれば、即ち休息なし」をモットーに医療現場に順応出来るよう環境づくりに励んでおります。

(薬剤部長 興野 将一)

セーフティネット部会の紹介

インシデント事例について、より迅速な分析、検討等を行うために、医療安全管理室の中にセーフティネット部会が設置されてから4年が経過しました。セーフティネット部会は医療安全管理室、医局、看護局、事務局、臨床工学科、薬剤科の10人のメンバーで構成されています。設置当初はなかなか組織としての議論に発展せず、どうしても医療安全管理者主体の運営に偏りがちでした。しかし4年目となった現在では、メンバー全員が院内の医療安全体制の充実のために熱意と責任ある態度で、活発な議論が展開されています。

重大なインシデント発生時には、リアルタイムに情報を共有し、関係部署を巻き込んで、カンファレンスや根本的な要因分析を実施しています。それぞれ多忙な診療や業務の合間に時間を調整し積極的に参加しようとしてくれる姿勢は、医療安全管理者として非常に心強く、又誇らしい気持ちでいっぱいになります。

今後もセーフティネット部会のメンバーとともに、さらなる医療安全文化の醸成を目指して精力的に取り組んで行きたいと思っております。

(医療安全管理者 山本 裕子・大木 悟子)



こども病院のボランティア

「入院」というこどもにとって普段の生活から離れた環境の中で子どもたちは日々過ごしています。こどもらしく成長しながらも治療を受けられる環境をつくるためにボランティアの役割は大切なものと考えられています。

現在こども病院には個人・グループあわせて19のボランティアが登録されています。

定期的なボランティアは主に絵本の読み聞かせ・学習ボランティア・外来の見守り・兄弟のお預かり保育等です。



大人とこどものための読み聞かせ会



お預かり保育・読み聞かせ

ほかには夏休み教室として大洗水族館の移動水族館・エーザイのお出かけ実験教室・シェルアートがあります。年1回「大人とこどもの読み聞かせの会」の公演も来ます。また病棟で使う抑制帯などこども病院特製のものを制作してくれるボランティアもあります。

こども病院のボランティアは月曜から金曜の9時から17時に活動をしていただいています。ご興味がある方は成育在宅支援室までお問い合わせください。



布の花



移動水族館



シェルアート

茨城県立こども病院 外来担当医一覧

2019年9月1日現在

科		曜日	月	火	水	木	金
内科系	一般	午前	熊崎香織・出澤洋人	齊藤博太・壹岐豊	三浦隆介・熊崎香織	齊藤綾子・塚田裕伍	福島富士子・佐藤良晃
		午後		予防接種（第1,3週）			
	血液（肝臓）	午前	小池和俊			土田昌宏	
		午後			小池和俊・加藤啓輔	土田昌宏（第2週）、 加藤啓輔、小林千恵	加藤啓輔
	心臓	午前	塩野淳子 林立申	林立申（胎児心臓）	塩野淳子 堀米仁志	塩野淳子 林立申	
		午後	塩野淳子 （14:00～16:00）	野崎良寛（第4週）	林立申	矢野悠介	
	アレルギー	午前			鬼澤裕太郎（初診）		黒田わか（再診のみ）
		午後			黒田わか（再診のみ）		黒田わか（再診のみ）
	神経	午前	田中竜太	田中竜太 岩淵恵美	川嶋浩一郎（第2,4週） （再診のみ）	田中竜太 西村一（第1,3,5週）	
		午後		田中竜太 福島富士子 大戸達之（第2,4週）	川嶋浩一郎（第2,4週） （再診のみ） 榎園崇、家島厚 （再診のみ）	田中竜太 福島富士子 西村一（第1,3,5週）	岩崎信明（隔週） （再診のみ） 岩淵恵美
	腎臓	午前	五十嵐徹（4週）	五十嵐徹（第2,4週）	泉維昌		
		午後	泉維昌			齊藤綾子	泉維昌
	内分泌病	午前			泉維昌		小笠原敦子
		午後	泉維昌 ※内分泌のみ 岩淵敦（第3週）		岩淵敦（第1週）		小笠原敦子
	消化器臓	午前					
		午後			田川学（第4週）		
	フォローアップ	午前	総合	総合	総合 泉維昌（第2,4週）	総合	総合
		午後	総合	総合	総合・出澤洋人	総合	総合
外科系	新生児	午前		梶川大悟			
		午後	星野雄介	淵野玲奈	新井順一	雪竹義也	鎌倉妙 一ヶ月検診
	小児外科	午前	東間未来	東間未来		矢内俊裕	益子貴行
		午後	矢内俊裕	東間未来（第1,3,5週） 東間未来（排泄）（第2,4週） 導尿外来（第2,4週）		矢内俊裕	益子貴行
	泌尿器科	午前				矢内俊裕	益子貴行
		午後				矢内俊裕	益子貴行
	心臓血管外科	午前			阿部正一（週3週除く） 坂有希子（週3週）		阿部正一 坂有希子
		午後					
	脳神経外科	午前		稲垣隆介・田村剛一郎		頭の形外来	
		午後	室井愛（第2,4週） 鶴淵隆夫（第1,3週）	頭痛外来（第1,3,5週） 稲垣隆介 二分脊椎（第2,4週）			
	整形外科	午前	塚越祐太（初診）			塚越祐太（第1,3,5週） 中川将吾（第2,4週）	
		午後	中川将吾（第1,3,5週）	塚越祐太（初診） 鎌田浩史（第2週） 都丸洋平（第4週）			
	形成外科	午前					
		午後				佐々木正浩（第1,3,5週）	

臨床心理外来は、月曜日～金曜日までの午前・午後を実施
茨城県立こども病院 予約担当 029-254-3713

診療時間 午前9～12時（受付時間 8:30～11:30）
午後1～4時（受付時間 1:00～3:30）

企画
編集

茨城県立こども病院広報委員会

〒311-4145 水戸市双葉台3-3-1
TEL 029-254-1151 FAX 029-254-2382
URL <http://www.ibaraki-kodomo.com/>

発行
責任者

茨城県立こども病院

病院長 須磨崎 亮

2020/5/20 公開に際して、
一部修正を行っています。